2027年3月期第2四半期

決算説明資料

ヘリオス テクノ ホールディング株式会社
スタンダード市場(証券コード:6927) | 11月18日

Helios Techno

INDEX

00　本日お伝えしたいこと

01　当社グループ概要と事業領域

02　2027年3月期第2四半期決算概要

03　2027年3月期業績予想

04　今後の成長戦略

APPENDIX

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

本日お伝えしたいこと

01｜27.3期2Qは増収・増益

売上高

61億円

前年同期比 +38.0%

営業利益

6.6億円

前年同期比 +168.0%

既存事業の採算性改善と新規子会社の業績寄与により
前年同期比で増収・増益を実現

02｜既存事業の「稼ぐ力」を強化

提案力・営業力のさらなる強化とストック収益の拡充

- 配向膜印刷装置・産業用ランプ需要を捕捉
- 保守・リニューアル、ランプ交換で安定収益
- 既存顧客基盤を活かし収益力を強化

03｜連続的なM&Aで次の収益の柱を創出

株式会社ホンダに続き、丸仲商事株式会社の株式取得を見込む

丸仲商事株式会社

事業内容	木工機器製造設備・FA機器を中心とした製造設備の製造・販売
業績規模	売上高 約30億円／営業利益 約5億円
投資額	約50億円
SPA締結	11月6日に株式譲渡契約（SPA）を締結

◎更なる事業ポートフォリオ拡大に向けて、連続的M&Aを推進

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

01 当社グループ概要と事業領域

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

MISSION

高付加価値な製品・サービスの提供を通じて、人びとの暮らしを豊かにする

VISION

- 持続的成長力のある研究開発型の会社を目指す
- オープンな企業経営を強く意識し、全てのステークホルダーに報いる開かれた会社を目指す
- 従業員が健康で、意欲的に仕事に取り組める会社をつくる

VALUE

HIGH QUALITY（高品質）
ENGAGE ALL STAKEHOLDERS
（全てのステークホルダーのために）
LITERACY & INNOVATION（学びと創造）
OPEN COMPANY（透明性）
SUSTAINABLE STRIDES（未来への歩み）

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

会社概要

（2026年9月30日時点）

商号	ヘリオス テクノ ホールディング株式会社 （Helios Techno Holding Co., Ltd.）
本社所在地	〒103-0002　東京都中央区日本橋馬喰町1-11-10
ホームページ	https://www.heliostec-hd.co.jp
設立	1976年10月
資本金	2,133百万円
証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード：6927）
従業員数（連結）	507名（臨時従業員含む）
代表者	代表取締役社長　　佐藤 良久
事業内容	関係会社の経営管理、コンサルティング並びにそれに付随する業務

ヘリオス テクノ ホールディング株式会社

製造装置事業
- フェニックス電機株式会社
- ナカンテクノ株式会社
- 株式会社リードテック
- 台湾納慷泰克股份有限公司

ランプ事業
- フェニックス電機株式会社
- 株式会社ルクス※
- 株式会社ホンダ

※11月2日付で株式会社ルクスの株式を譲渡

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Helios Techno

当社グループの価値創造の歩み

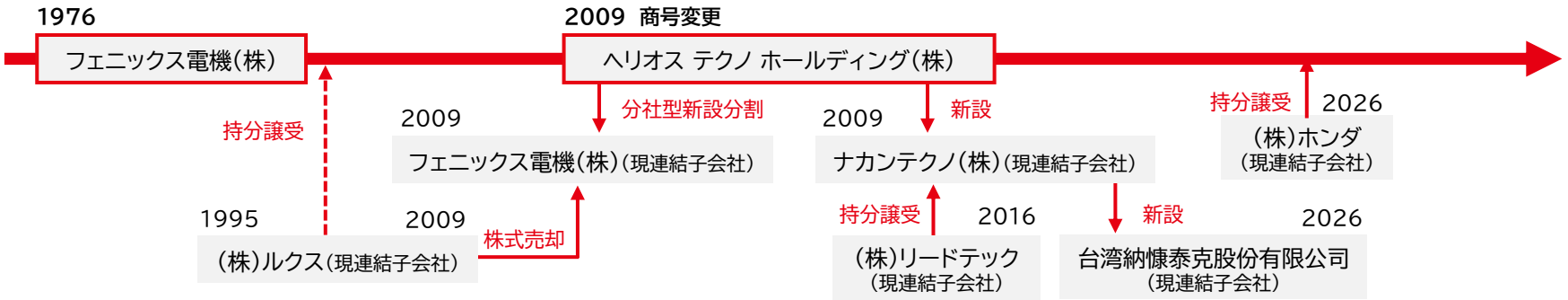
――映像と光の進化とともに製造装置事業とランプ事業の両輪で成長

1970～1990年代（創業期）
- 兵庫県姫路市で創業（1976）
- 店頭市場に登録（1989）
- 会社更生手続開始申立（1995）

2000年代（成長期）
- ランプ事業拡大（プロジェクター用など）
- 製造装置事業に参入、LCD配向膜印刷装置を展開
- JASDAQに上場（2002）
- 東証2部に上場（2005）
- 東証1部に指定替え（2006）

2010年代（成長期）
- 持株会社体制（ヘリオス テクノ ホールディング）へ移行（2009）
- 海外展開強化（海外パネルメーカーへの納入拡大）

2020年代～（成長期）
- ランプ事業は光源技術を活かした付加価値の創造を追求
- 製造装置事業は半導体関連向け装置等への開発及び事業化を推進
- 東証スタンダード市場に移行（2022）



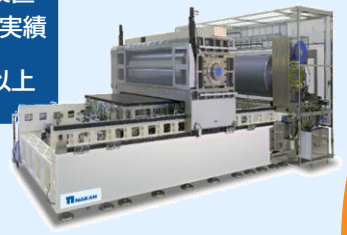
Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Helios Techno

当社グループの強み

製造装置事業

配向膜印刷装置
世界での納入実績
800台以上



ニッチ × 最高峰

LCDの主要工程である配向膜形成を「印刷」で実現する装置等において、圧倒的な世界トップシェア

NAKAN　PHOENIX Electric Co.,Ltd.　株式会社リードテック

装置から部品や保守まで
横断的に対応できる
グループ一貫体制

顧客の様々な要望や課題解決
（メンテナンス・改造まで）に
当社グループ横断で対応可能

小回りが利く
意思決定が早い組織

お客様のニーズに沿った“小ロット・個別最適”
案件にも機動的に対応できる組織



カスタム光源 × 開発

開発段階の設計から評価まで伴走し、
オーダーメイドによる個別製品の
ビジネスモデル

PHOENIX Electric Co.,Ltd.　株式会社ルクス　HONDA

※2026年4月に子会社化

ランプ事業

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

液晶パネルの製造工程と当社グループ製品の役割①

高精細化の要、競争力の源泉となるカラーフィルター(CF)露光と配向膜塗布(CF工程/セル工程)で欠かせない存在

液晶パネルの製造工程

STEP 1 ガラス基板処理

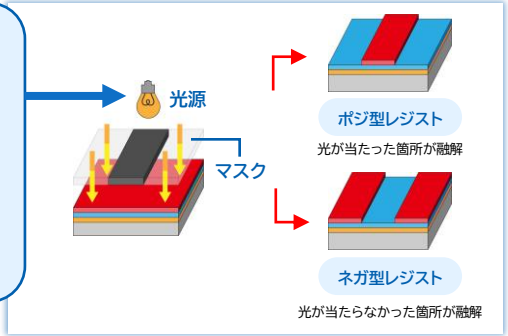
- 大型ガラスを洗浄・カットし基材を準備

MLS装置
(当社グループ製品)



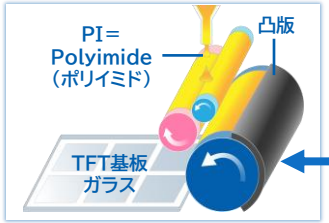
STEP2 ① アレイ工程(TFT基板形成) ② CF工程(カラーフィルター形成)

- 低消費電力化のカギとなる工程
- ① 露光・エッチングで薄膜トランジスタ(TFT)や配線を形成
- ② 露光装置によりカラーフィルターのRGBをパターニング



STEP3 セル工程

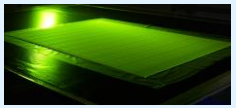
- TFT基板にフレキソ印刷機による均一な印刷で、高精細パネルの配向膜を形成
- カラーフィルター基板とTFT基板を貼り合わせ
- 液晶を注入し、画素を制御できる状態に



STEP4 モジュール工程

- バックライト、ドライバIC、配線基板を実装
- 映像信号を液晶に伝えるシステムを構築

NSC版
(当社グループ製品)



STEP5 組立・検査

- 外装、回路、スピーカー等を組込み
- 厳格な画質・耐久検査を経て出荷

フレキソ印刷機
(当社グループ製品)



Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Helios Techno

液晶パネルの製造工程と当社グループ製品の役割②

当社の製造装置で生産される液晶ディスプレイは、身近な製品から社会インフラまで、幅広い分野で活用されている

液晶ディスプレイを使った製品の一例

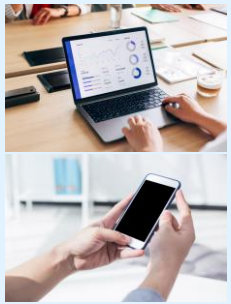
TV・大型ディスプレイ

- 液晶テレビ
- 業務用モニター
- デジタルサイネージ



IT・モバイル

- ノートPC
- モニター
- タブレット
- スマートフォン



車載

- カーナビ
- CID
  （センター インフォメーション ディスプレイ）
- メーター
- デジタルミラー
- 後部ディスプレイ



産業・医療

- 工場HMI（ヒューマン マシン インターフェイス）
- 半導体装置
- 工作機器
- 医療機器
- 検査装置



家電・その他

- 冷蔵庫
- 電子レンジ
- プリンター
- ATM
- 券売機



Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

事業セグメント/製造装置事業

- フレキソ印刷機(LCD生産ラインの配向膜塗布工程用)、インクジェット印刷機等、製造装置の開発・製造・販売
- CF露光装置用光源ユニット、半導体製造装置向けのウェハ研磨機・石英ガラス製品の開発・製造(加工)・販売

サプライヤー

原材料メーカー
部品メーカー
委託加工業者　等

部品調達

製造装置事業

ナカンテクノ(株)

各種印刷装置や半導体ウェハ研磨機等の製造・販売・メンテナンス

フェニックス電機(株)

CF露光装置用光源ユニットの製造・販売

(株)リードテック

LCD・各種製造装置等の製造・販売

台湾納慷泰克股份有限公司

NSC版レーザー加工事業他

※LCD:液晶ディスプレイ(Liquid Crystal Display)

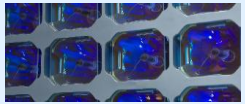
製造・販売



フレキソ印刷機



インクジェット印刷機



CF露光装置用光源ユニット

顧 客

液晶パネルメーカー
大手電機メーカー
半導体製造装置メーカー
等

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

事業セグメント/製造装置事業

■ 既存事業の拡張を狙い、半導体関連装置の開発等を推進

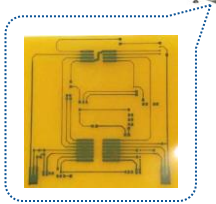
ナカンテクノ(株)

半導体ウェハ研磨機、インクジェット印刷機
(導電性インクによるパッケージの配線形成)



▲ ウェハ研磨機





▲ インクジェット印刷機

(株)リードテック

PLP向けスリットコーター、
パワーデバイス向けテスターなど



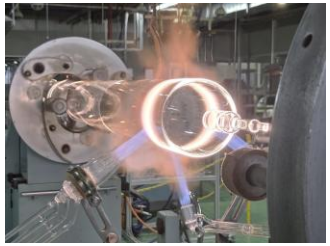
▲ PLP向け
スリットコーター



▲ パワーデバイス向け
テスター

フェニックス電機(株)

半導体製造装置向け
石英ガラス製品



※(株)テクノ工房は、フェニックス電機
京都工場として操業

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

事業セグメント/ランプ事業

- CF露光装置用光源等の産業用ランプ、及びLEDランプ、電気器具のハーネス等の製造・販売
- 光源ランプの開発（お客様の新製品開発の初期段階から参画し、設計・試作・テスト・評価を繰り返しながら製品化）



サプライヤー

原材料メーカー
部品メーカー　等

部品調達

ランプ事業

フェニックス電機（株）	（株）ルクス	（株）ホンダ
産業機器向けのランプ、光応用製品の製造・販売	国内外メーカーのランプ・照明器具・空調・太陽光発電関連製品等の販売・施工	電気器具のハーネス加工、部品組立及び完成品組立

お客様のニーズに合わせた技術・製品を提供

- ランプ開発
- カスタムLED開発
- 光学モジュール開発
- 点灯回路開発
- 応用機器開発

お客様

製造・販売



MLSランプ



LED



ハーネス



顧 客

FPD製造装置メーカー
大手電機メーカー
専門商社
一般企業　等

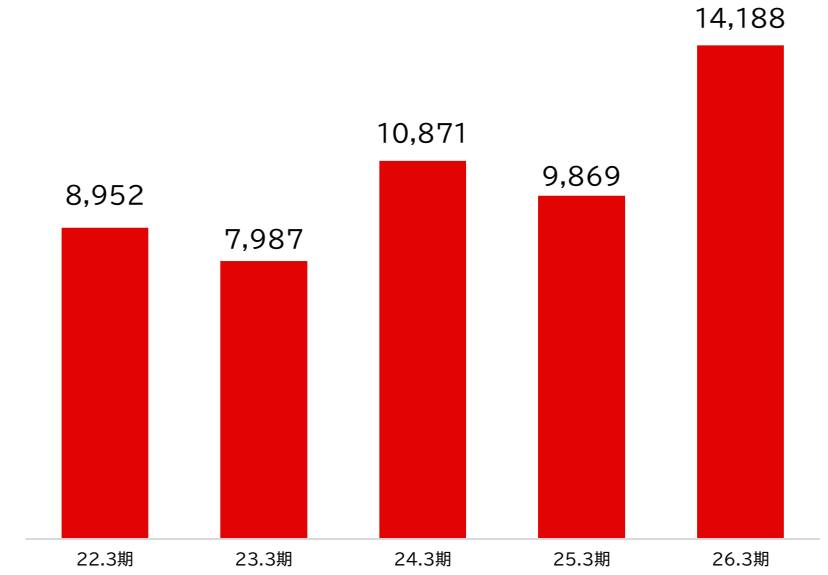
Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

業績推移

主要顧客の設備投資計画の動向により、業績は一定幅で変動するも、売上・利益ともに安定かつ堅調に推移

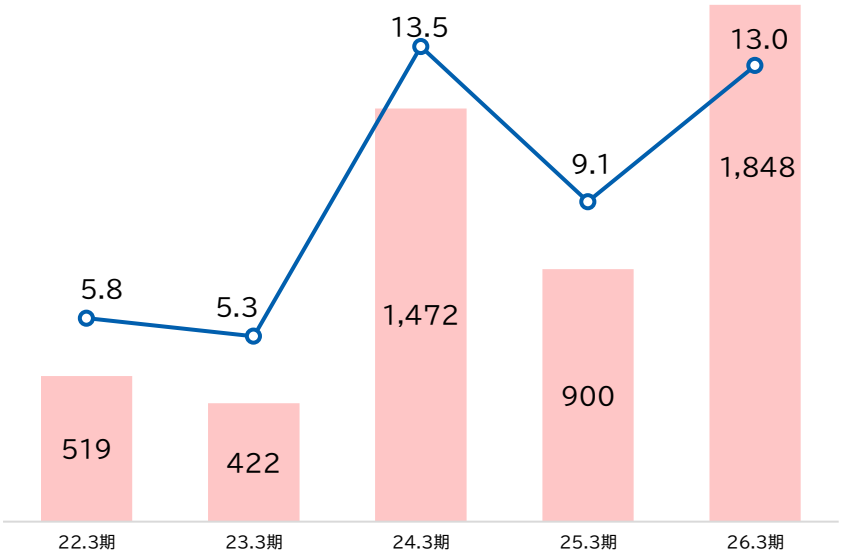
売上高

（百万円）



営業利益 / 営業利益率

（百万円 / %）



Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

02 2027年3月期第2四半期決算概要

01 03 04

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期 連結業績

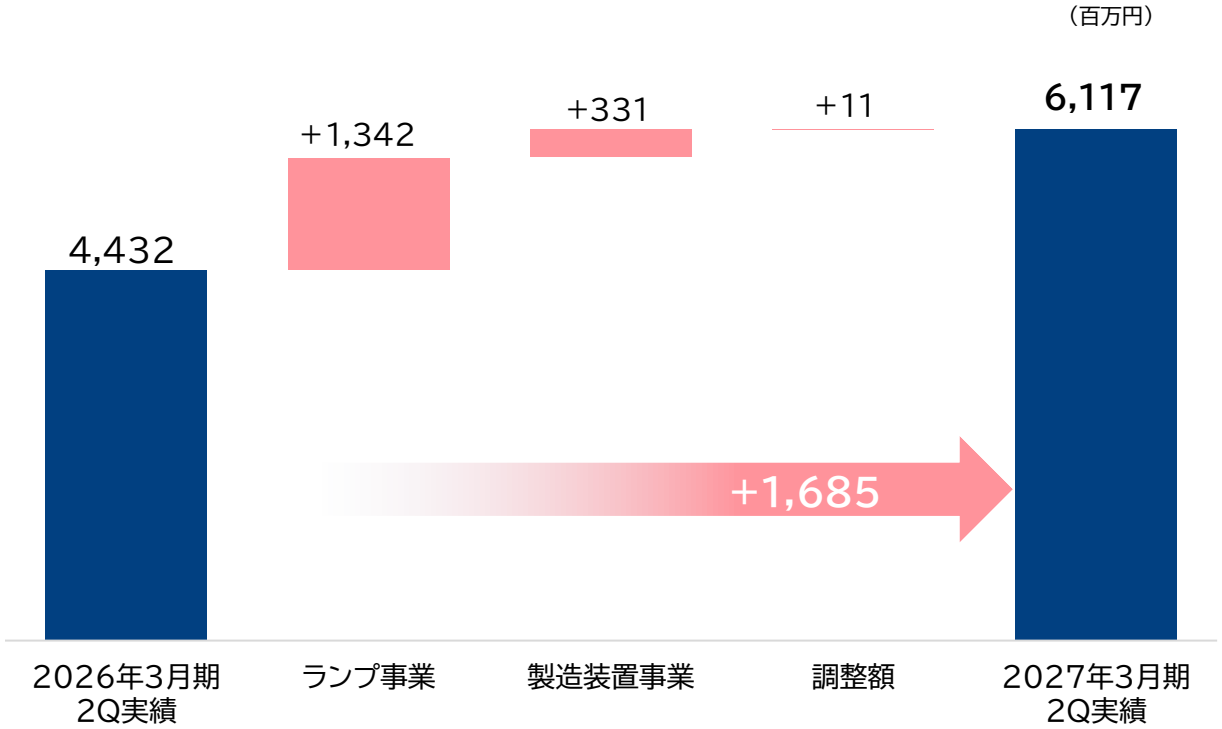
配向膜印刷装置の一部検収が第3四半期以降に後倒しとなり、計画比では減収となったものの、既存事業の採算性の改善や新たにグループ入りした子会社の業績寄与などにより、前期比では増収増益

単位:百万円	2026年3月期 第2四半期 実績	2027年3月期 第2四半期 予想	2027年3月期 第2四半期 実績	前年同期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	4,432	7,000	**6,117**	+1,685	+38.0%	△882	△12.6%
営業利益	249	600	**667**	+418	+168.0%	+67	+11.3%
営業利益率	5.6%	8.6%	**10.9%**	+5.3Pt	—	+2.3Pt	—
経常利益	341	600	**684**	+342	+100.1%	+84	+14.0%
親会社株主に帰属する中間純利益	247	400	**421**	+173	+70.3%	+21	+5.4%
EBITDA※	334	—	**812**	+478	+142.9%	—	—

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

連結売上高増減要因



※調整額：セグメント間の内部取引

ランプ事業（+1,342）

MLSランプの販売堅調や新規子会社の業績加算により、上期では前年同期比で増収

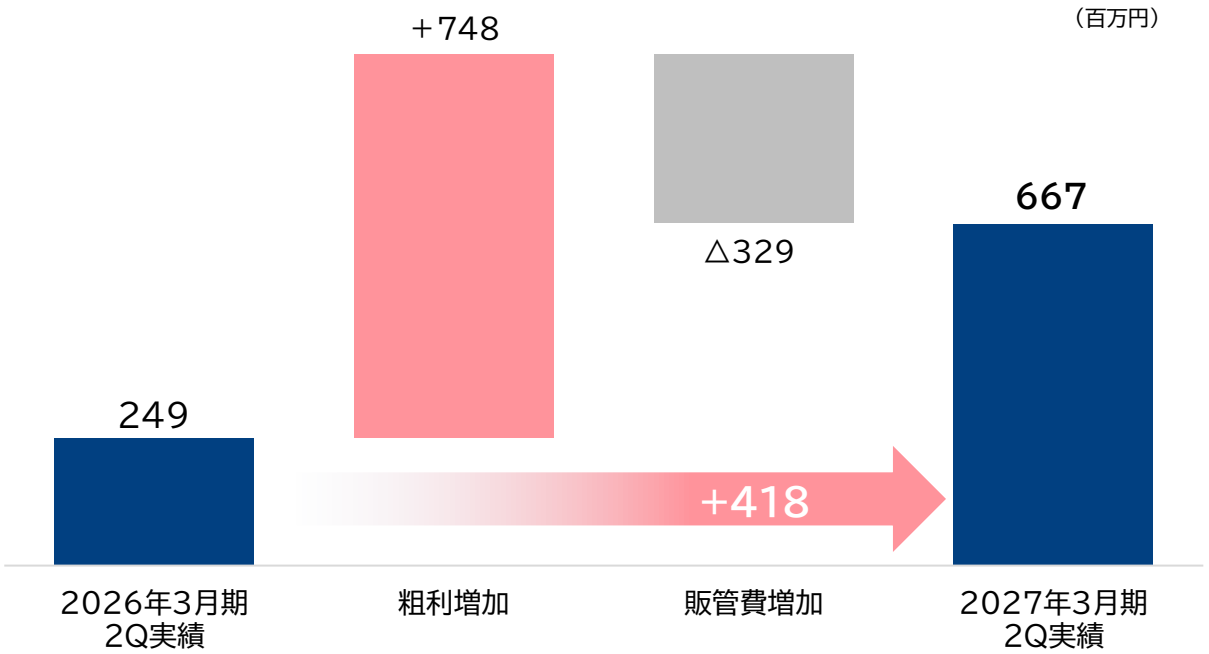
製造装置事業（+331）

配向膜印刷装置の一部検収が後倒しとなったものの、設備需要が堅調に推移したことから、上期では前年同期比で増収

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Helios Techno

連結営業利益増減要因



粗利増加（+748百万円）

主に既存事業の採算性改善やグループ入りした子会社の業績加算による

販管費増加（△329百万円）

主に事業規模拡大に伴う経費の増加や従業員の待遇改善等による

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

セグメント別業績

製造装置事業 生産設備への堅調な需要に加え、採算性の改善などにより、増収増益

ランプ事業 MLSランプの販売堅調や新規子会社の業績加算等により、増収増益

(百万円)	売上高				セグメント利益			
	2026年3月期第2四半期	2027年3月期第2四半期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2026年3月期第2四半期	2027年3月期第2四半期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
製造装置事業	3,185	**3,517**	+331	+10.4%	338	**574**	+236	+69.9%
ランプ事業	1,262	**2,604**	+1,342	+106.3%	199	**468**	+268	+135.0%
調整額	△15	**△3**	+11	—	△288	**△375**	△86	—
合計	4,432	**6,117**	+1,685	+38.0%	249	**667**	+418	+168.0%

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

連結貸借対照表

総資産	+1,794	主に固定資産の増加により増加
負債	+2,565	主に有利子負債の増加により増加
純資産	△771	主に剰余金の配当により減少

（百万円）	2026年3月期 期末	2027年3月期 第2四半期 期末	増減額
流動資産	**16,845**	**17,001**	**+156**
現預金	12,309	10,452	△1,856
売上債権	1,957	2,476	+519
棚卸資産	2,382	3,747	+1,364
その他	196	324	+128
固定資産	**4,262**	**5,900**	**+1,638**
総資産	**21,107**	**22,902**	**+1,794**
負債合計	**3,834**	**6,400**	**+2,565**
買掛債務	1,110	1,457	+346
有利子負債	152	2,244	+2,092
その他	2,572	2,698	+126
純資産	**17,272**	**16,501**	△771
負債純資産合計	**21,107**	**22,902**	**+1,794**

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

連結キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ、18億56百万円減少



営業CF（ △ 1,037百万円）

主に棚卸資産の増加によるもの

投資CF（△1,188百万円）

主に子会社株式の取得や有形固定資産の取得によるもの

財務CF（＋327百万円）

主に長期借入金の収入、配当金の支払によるもの

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

03 2027年3月期業績予想

01 02 04

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

事業環境の見通し

- 製造装置事業は、液晶メーカーの設備投資の堅調によりフレキソ印刷機などの受注が好調
- ランプ事業は、露光装置用光源ランプの需要好調が一般照明用ランプの落ち込みを補填

	景況感（前期対比）	事業環境の見通し	当社取り組み
製造装置事業	 26.3期 ▶ 27.3期	● フレキソ印刷機をはじめとする配向膜印刷装置の販売は引き続き好調に推移 ● メンテナンス事業や版事業の販売も伸長	● 顧客のニーズを的確にとらえた技術開発を推進し、顧客満足度のさらなる向上を図る ● 半導体分野における新規事業の実用化に向けて事業基盤の構築を推進し、第3の柱となる事業創出を目指す
ランプ事業	 26.3期 ▶ 27.3期	● LEDの特性および補助金効果の一巡により、一般照明市場の競争環境がより選別的な局面に移行 ● CF露光装置用光源ランプの販売は引き続き好調に推移	● 長年培った光源技術をベースに、自社の強みを生かした製品開発・製品改良を継続 ● 市場環境の変化や顧客の設備投資動向を踏まえた販売戦略を継続的に実行

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

2027年3月期通期 連結業績予想

- 主力製品である配向膜印刷装置などの販売好調に加え、M&Aでグループ入りした㈱ホンダの業績寄与により、売上高は前期比で増収を見込む
- 前期に計上した一過性要因の受取補償金の剥落影響や経費増により、利益は前期比で減益を見込む

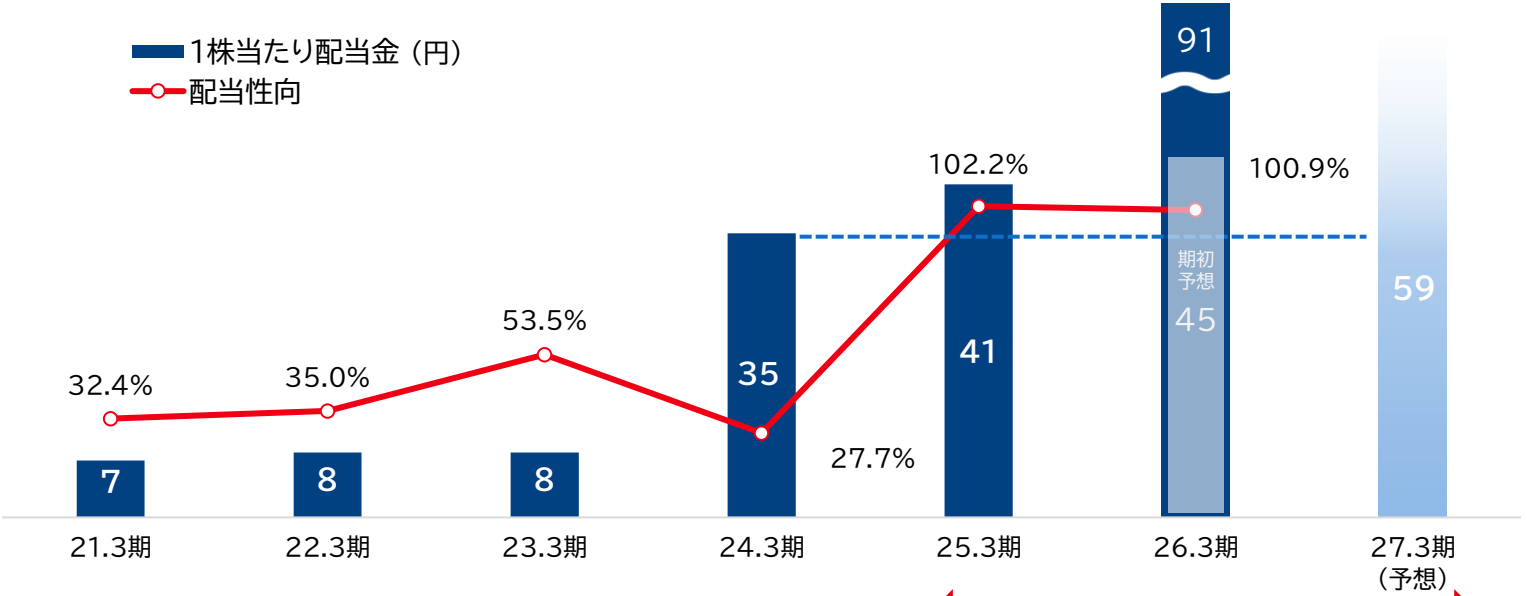
（百万円）	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	2026年3月期実績/ 2027年3月期予想	
			増減額	増減率
売上高	14,188	15,000	+811	+5.7%
営業利益	1,848	1,700	△148	△8.0%
営業利益率	13.0%	11.3%	△1.7Pt	―
経常利益	2,306	1,700	△606	△26.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,637	1,200	△437	△26.7%
ROE	9.8%	約7%	―	―

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Helios Techno

株主還元

- 2026年3月期は、前年同期比大幅増益し、91円配当を実現
- 2027年3月期も引き続き配当性向100%※と下限35円を厳守



※ 2027年3月期配当については、2026年3月期以降にグループ入りした企業並びに今後グループ入りする企業の当期利益寄与分は、連結配当性向の計算対象としない

連結配当性向100%

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

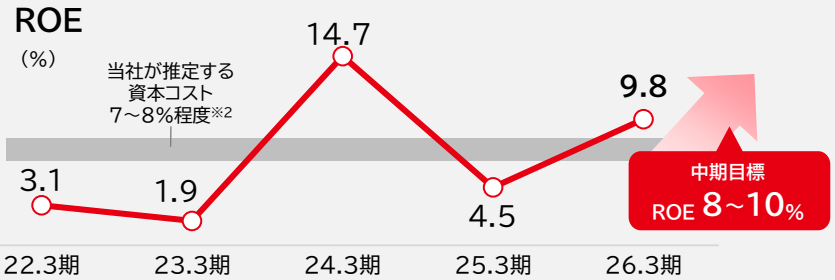
04 今後の成長戦略

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

今後の目指す姿

（百万円）	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	目指す姿（2029年3月期）
営業利益	900	1,848	1,700	2,500
当期純利益	728	1,637※1	1,200	1,500
ROE	4.5%	9.8%	約7%	8～10%
自己資本比率	76.1%	81.8%	70%台	50%以上

財務健全性を維持しながら、資本コストを上回るROEの実現を目指す



＞ 資本コスト 推定 7～8%※2

※1 一過性の受取補償金（326百万円）を含む
※2 2026年3月末時点で当社の資本コストを試算

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

事業環境認識

AIとテクノロジーの急速な進化やグローバル化の進展に生じた機会とリスクを捉え、持続的な成長と企業価値の向上を目指していく

想定されるリスク	財務影響度
中国をはじめとするアジア地域を中心とした顧客の投資サイクルへの依存	高
中東情勢緊迫化による物流・調達コストの上昇、部材・原材料不足	高
地政学リスクによるサプライチェーンの不安定化	中
技術トレンドの移り変わりの速さ（表示デバイスの進化や半導体製造装置の高難度など）	中
経営資源の制約（人材確保等）	低

想定される機会	財務影響度
液晶パネルメーカーの新規設備投資の計画実現	高
デジタル・IT化の加速に伴い、半導体装置・部材における新たな付加価値への需要が拡大	中
医療・産業用途での「光技術」需要の堅調な需要と成長	中
新ディスプレイ技術や次世代装置への展開余地	中
省資源、省エネ製品の需要の高まり	低

当社の取り組み

- 製品価格の適正化と物流の最適化を図り、サプライチェーンにおける戦略パートナーの選定ならびにグローバル生産体制の確立
- 技術イノベーションの推進
- エネルギー問題や災害対策などに資する製品・サービスの創出
- 社内DXの推進による生産効率性の向上

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Helios Techno

今後の成長戦略

事業ポートフォリオの拡大により、すべてのステークホルダーとともに、
持続的な成長と企業価値の向上を目指していく

変革と創造

Transformation to the next stage

1 既存事業の成長と発展

- 顧客ニーズに応えた既存製品の改良を進め、競争優位性を向上
- 既存市場に投入する新製品の研究開発を強化し、製品化を加速

2 連続的なM&Aによる事業ポートフォリオの拡大

- 「ものづくり」関連企業のM&A等を通じて（最適なリソース配分により）新たな価値創造モデルを構築
- 収益源の多様化を図り、持続的な成長を実現

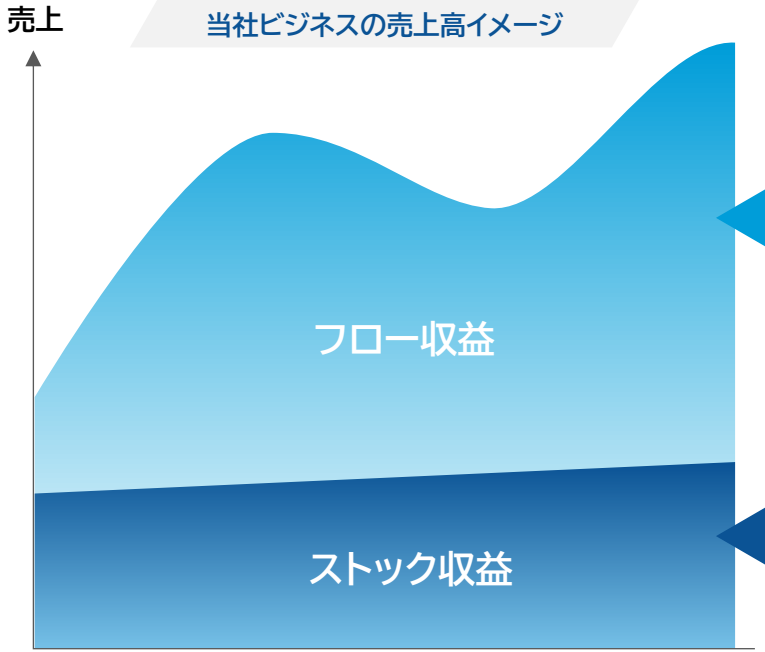
3 企業価値向上の取り組み加速

- 「資本コストや株価を意識した経営」の取組加速
- 資本コストおよび資本収益性に関する目標の設定

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

1 既存事業の成長と発展

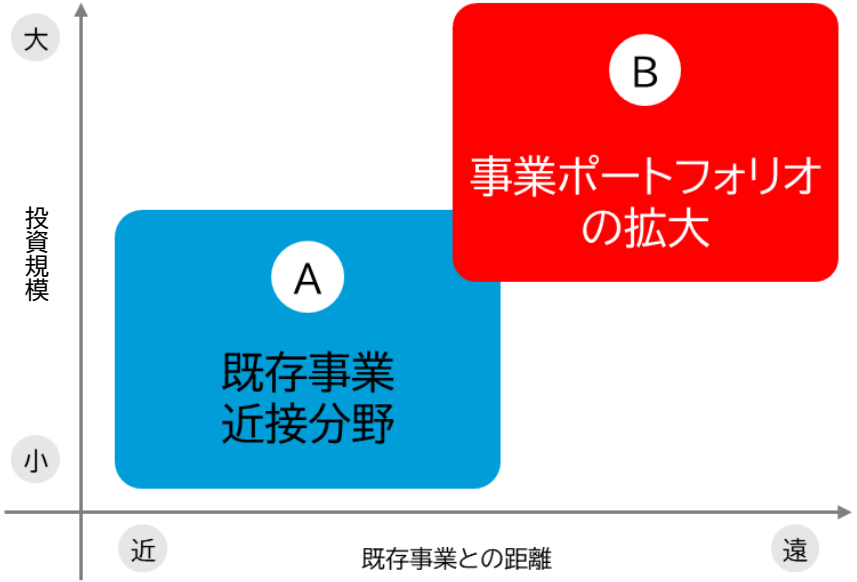
安定したストック収益を確保しながら、戦略事業の開発・進出によるフロー収益の拡大を推進



	既存事業	戦略事業
フロービジネス	● 配向膜印刷装置やインクジェット印刷機の拡販 ● CF露光装置用光源ユニットの拡販	● SiCパワー半導体分野 ・加工プロセスの開発 ・事業化の推進 ● モノづくり産業におけるM&Aの推進 ・企業価値・資本効率向上を目的とした戦略的M&A ・成長投資としてのM&Aを通じた事業ポートフォリオの拡大
ストックビジネス	● 配向膜印刷装置のメンテナンス・リニューアル ● 産業用ランプ（露光装置用光源等）の交換需要	● 光源技術を生かした各種開発 ・検査・テスト装置向け ・外部連携で事業化加速

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

2　連続的な「ものづくり」企業のM&Aによる事業ポートフォリオの拡大



「既存事業近接分野」と「事業ポートフォリオの拡大」の双方に寄与するM&Aを推進

A　当社の得意とする既存事業と親和性が高く、シナジーが見込める企業

B　ものづくりをキーワードに、既存事業とのシナジーにこだわらない分野への進出を目指す

買収後、さらに事業の成長・事業拡大を図る

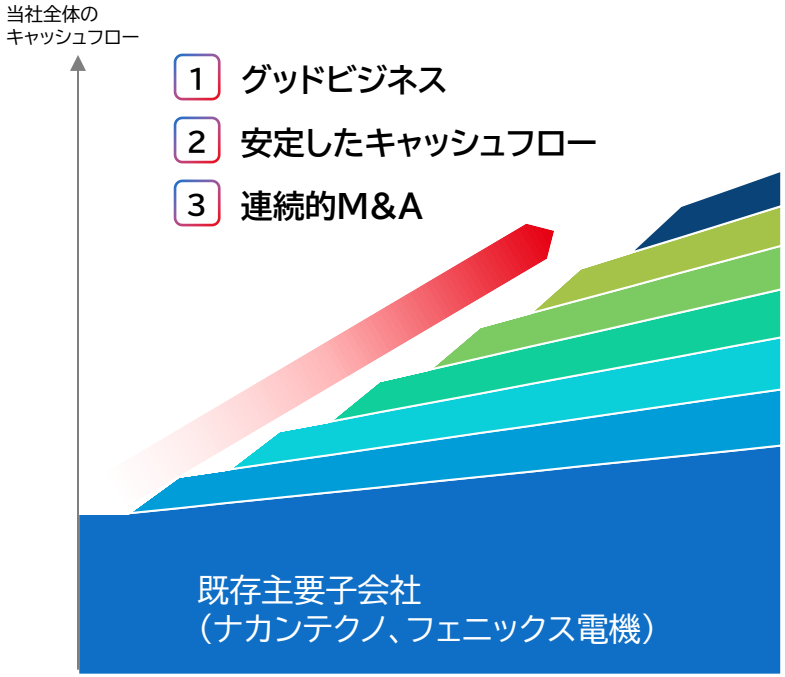
Accretive　M&Aの推進

- 買収後の当社グループ企業価値向上に資するM&Aに積極的に取り組んでいく
- 具体的には、買収前に比して買収後のEBITDAマージン・キャッシュフローの増加に資するポートフォリオの構築を推進する

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

2　連続的なM&Aによる事業ポートフォリオの拡大

シナジーに限らず、グッドビジネス・グッドキャッシュフローを軸に企業価値を高めるM&Aを推進



M&A投資方針

投資対象	製造業を中心に、非上場会社・上場会社・事業承継案件
事業・戦略適合性	既存事業とのシナジーが期待できる領域を優先するが、シナジーは必須としない。中長期的な企業価値向上に資する案件も対象
投資判断基準	グッドビジネス、グッドキャッシュフローを原則とし、収益力・資本効率の向上が期待できること
規模・バリュエーション	売上高20億円以上、EV/EBITDA倍率6倍以下が目安。評価はキャッシュフローベースで行う
オーナーシップ	必ずしも100%株式の取得にはこだわらず、子会社の経営陣（パートナー）による一部株式の保有も検討。共同オーナーとして利害や方向性の一致を図る
資金調達方針	借入を有効活用し、バランスシートの効率性を高める

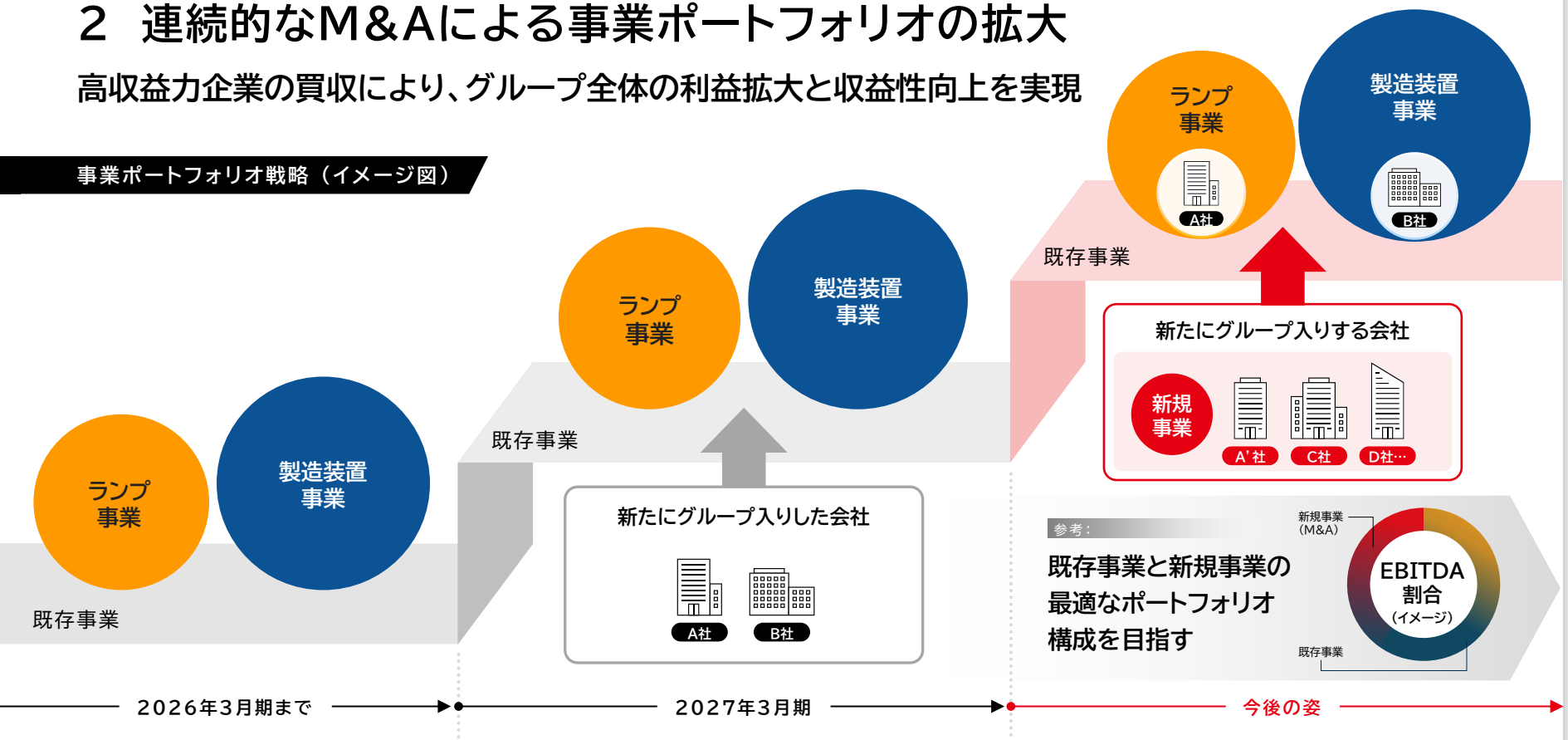
Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Helios Techno

2　連続的なM&Aによる事業ポートフォリオの拡大

高収益力企業の買収により、グループ全体の利益拡大と収益性向上を実現

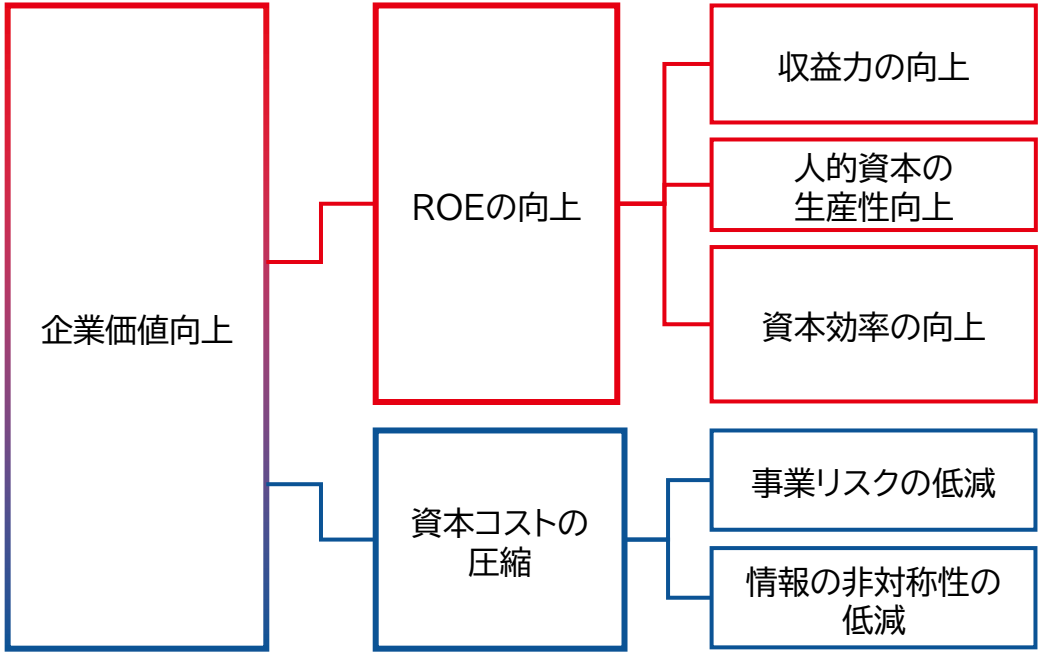
事業ポートフォリオ戦略（イメージ図）



Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

3　企業価値向上の取り組み加速

資本コストや株価を意識した以下の取組を加速することと持続的な企業価値向上を目指す



- 新規事業の創出による第3の柱の確立
- 製品開発による既存事業の強化
- 社員の能力を最大限にする組織づくりの推進
- 自己資本コントロールを意識した積極的な株主還元
- 手元流動性、レバレッジの活用を視野に入れた投資計画
- 事業ポートフォリオの強化によるリスク分散
- IR体制の整備による情報発信力の強化

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

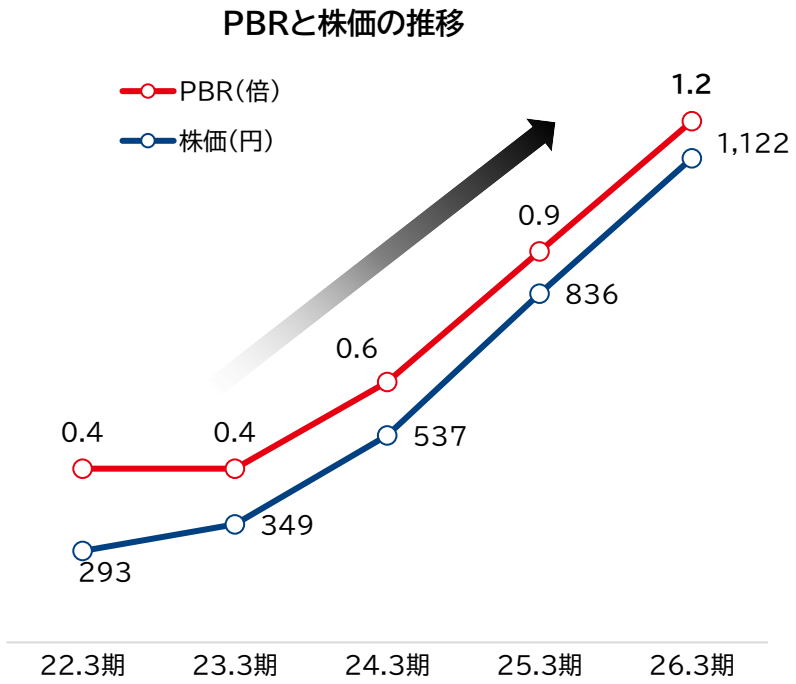
APPENDIX

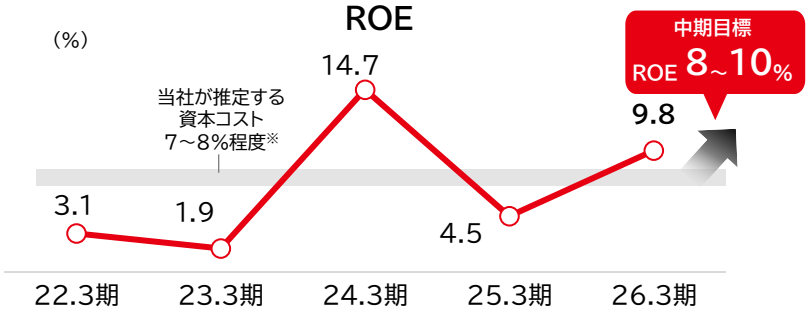
Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

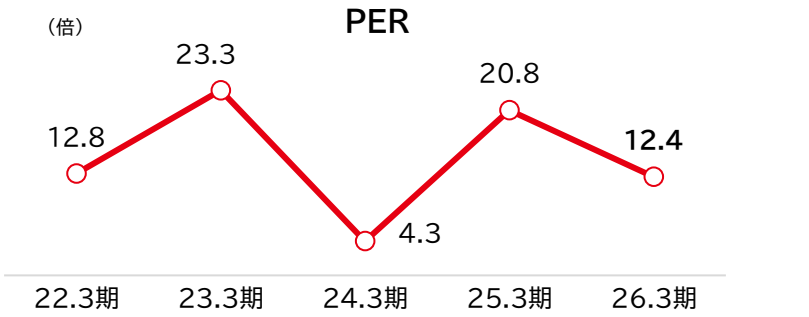
Helios Techno

株価関連指標の現状

PBRはここ5期で0.8P改善。収益性向上などによるROEの改善がPBR1倍超への鍵







※ 2026年3月末時点で当社の資本コストを試算

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

Rising Sun Management Ltd.（RSM）との業務提携

ダルトン・グループのノウハウとネットワークを活用し、M&Aを加速

Helios Techno　RSM

提携の概要・目的

- 米国の投資運用会社グループのダルトン・グループを代表する RSMと、業務提携契約を2025年5月14日に締結
- 中長期的な企業価値向上を加速するため、RSMからの取締役派遣およびM&Aを活用し、新規事業創出と事業ポートフォリオの拡大を図る

提携のスキーム

- RSMのハンズオンでの経営参画を通じたM&Aに関する戦略立案及び実行支援
- 当社事業ポートフォリオ拡大に向けたRSMとの施策推進
- 当社100%出資による子会社（投資支援業務）の設立

提携を通じた期待効果

- M&Aの機会創出と実行力の強化
- ポートフォリオの多様化と収益安定性の向上
- 意思決定の質とスピードの向上

外部パートナーの知見を取り込み、長期的な企業価値向上を図る

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

2026年4月1日に第1号案件実現（株式会社ホンダ）

概要　電気器具のハーネス加工、部品組立て及び完成品組立てを主業とする創業70年を超える優良企業

会社名	株式会社ホンダ
設立日	1978年6月1日（創業：1951年）
所在地	本社：新潟県燕市　その他工場3拠点
代表取締役	本田　信哉
資本金	5,060万円
株主 （出資比率）	ヘリオス テクノ ホールディング株式会社 （100%）
事業内容	電気器具のハーネス加工、 部品組立て及び完成品組立て
売上高 （2025年4月期）	1,852百万円
営業利益 （2025年4月期）	306百万円



（※出所：同社HPより）







Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.

ディスクレーマー

本資料は、当社の決算説明を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。本資料に記載された業績予想、見通し、計画、その他将来に関する記述（以下「将来予想情報」）は、当社が作成時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因によりこれらと異なる場合があります。なお、当社は、本資料に記載された情報の正確性、完全性、適時性を保証するものではなく、将来予想情報については、当社が必要と判断した場合に予告なく変更することがあります。投資判断を行う際は、当社が提出した有価証券報告書その他公表資料を必ずご確認ください。

Copyright © Helios techno holding Co.,Ltd.All Rights Reserved.